

平成29年度 岐阜県高山陣屋運営懇話会

1. 日時：平成29年5月31日（水） 13：30～15：40

2. 場所：岐阜県高山陣屋管理事務所 ガイダンスルーム

3. 出席者

岐阜県高山陣屋運営懇話会 構成員 10名
文化伝承課 浅野課長、記念物保護係 三浦係長、三輪主任
高山陣屋管理事務所長 門端、管理調整係 吉田、大向、学芸員 堀

4. 議題

- (1) 高山陣屋の事業概要について
- (2) 高山陣屋についてのご意見

5. 議事要旨

(1) 高山陣屋の事業概要について（視察含む） 門端所長より、資料に基づいて説明。
岩佐説明専門職より説明案内

(2) 高山陣屋についてのご意見 門端所長より、資料に基づいて説明

【出席者】

初めて高山陣屋を見学したがとても素晴らしかった。地元の人に何うと高山陣屋を勧められる理由がよくわかる。保存のための管理が行き届いていて感心した。

【所長】

高山の地元の人には説明ガイドを受けた人は少ない。今後とも地元の人が入って聞いていただけるような努力をしたい。

【出席者】

当時の建物を現在まで保存し続けていることは、大変な努力である。小学生の頃に伺ったとき、牢屋がまだあり、その中に人が入っていた。そのイメージが非常に強烈で頭から離れないほどだった。陣屋というところが昔はそういう所だったのだと衝撃を受けた。

【出席者】

海外のお客様が全体のうち50%を超えているとのことだが、全国的に文化財に落書きや油をかけるなどの事件がおきている。海外の方ばかりが起こすわけではないが注意したほうがよい。警備が表を見てはいるが、建物の中までは目が届かない部分もあるので防犯対策をしっかりと考えたほうがよい。

【所長】

警備に関する検討としては昨年度から行っており、監視カメラを導入できないかと考えている。物が盗まれたり落書きされたりということもあるので、早急に対応していきたい。

【出席者】

過去の懇話会の意見を聞き、対応をしてくれているので状況はよくなってきていると思う。これからは陣屋の新しい活用方法を考えるべきである。例えば、見学する際のルートについて二階の使用ができない

などの理由があるのは理解できるので他に利用の方法はないか。説明のやり方だが最初から詳しく説明するのではなく、まず全体についての簡単な説明をしたほうがよい。また、昨年度から言われている貸館、貸室の対応はできないにしても積極的に活用できないか。学芸員の企画展を今後どうしていくのか。入場人数が増加しているが、畳の保存状態などはどう対応するのか。

過去の懇話会の意見を振り返って、今まで出てきた意見を整理して、これからの高山陣屋をどうしていくのかを決めなければいけない。テーマ別（見学ルート、説明案内、貸館貸室、企画展 等）や方向性を決める少人数の委員会を実施するのもよいのではないか。

【所長】

貴重な意見をいただいた。今後の陣屋のあり方を検討させていただく。

【出席者】

入場人数が35万人を超えており、そのための多種多様な努力を行っていることはよい。その中で、海外の入場者数は増加しているが、国内の入場者はなぜ減少しているのか。これに関して調査を行うべきだと思う。

【所長】

現状を分析して、調査を行いたいと思う。

【出席者】

色々な企画を行っていてよくやっていると思う。あえて希望するなら、小中学生がもっと来ていただけるような対応をしていただきたい。地元の子供が誇れるようになればよいと思う。もう一つは、畳の部屋を歩くときに、敷居を踏まないことや畳の縁を踏まないことなど、マナーも大切なことを説明してもらえると飛騨高山や日本の文化を知ってもらう方法の一つになると思う。

【所長】

地元の人に来ていただけるようなイベントを考えていく。説明に関してもスキルアップの研修を実施していきたいと思う。

【出席者】

たくさん入場者を見たが、荷物を預ける場所はあるのか。大きなリュックを持ち椅子に座ったままの人がみえた。子供が水筒のお茶を建物にかけてしまうのではないか。海外の入場者からの高山陣屋への感想が分かるようアンケートを設置して、どういう感想をもたれるのか知っておくべきだと思う。海外の方の中には、日本のマナーを知らない方がいらっしゃるのでは気が付いたほうがよい。

【出席者】

外国人アンケートを実施することは必要だと思う。外国人のニーズをリサーチすることは大変重要である。

今後の高山陣屋の方向性をどうすべきか。教育に力を入れた施設にするとか。

子供たちを対象にもっと教育ができるのではないか。日本のマナーに関する教育など充実できないか。

説明ガイドも、入場した人がみな聞けるわけではないので、例えば音声ガイドを設置するなどして、もっと多くの見学者に対応するようにして、わかりやすく伝えるよう工夫をしてはどうか。

真向き兔のステッカーなどを入場の際に配布するとお客様が喜ばれるのではないか。物販販売ができるといいのではないか。

【所長】

県立組織なので、物販をすることは検討しているが難しい。真向き兔のマグネットは、工業高校の生徒が作成し、販売している。説明に関しては、実際に入場者が多い場合対応できないこともあり、音声ガイドの導入も今後検討する必要があると思う。

【出席者】

文化財を保護することではなく、観光資源として活用していくかを考えていかなければならない。説明を聞くことができない場合、ただ見るだけでは建物の魅力が伝わってこない。昔の人の生活が伝わってくるような展示をすると、海外の人も興味を持ってよいと思う。地元の子供たちにも陣屋を知ってもらいたい。なぜこの場所に陣屋があるのかをしっかりと理解してもらうことが関心を高めると思う。アプリを使用することで当時の状況を再現できるが、イラストや写真などを設置してもっと理解しやすいように展示することはできないか。海外の方がどこの国の方か分かるようにはしているか。海外の方へのアンケートを実施して何を目的としているかを知ることが大切である。

【所長】

どこの国の方かは、受付でパンフレットを配布する際に伺っている。アジア人とそれ以外の国で集計を取るようになっている。

今後も、高山市と連携を取っていききたいので、ご協力をお願いします。

【出席者】

建築の工夫や身分制度による作りの違いなどを知ることができとても興味深かった。もしガイドで可能であれば、建築、歴史、人物、時代別、陣屋への入門編のように視点ごとに説明を分けて説明できると、リピーターも増えると思うし、地元の人々の興味を引けるのではないか。旧高山市内でも気軽に行けない小学校の生徒がわかるような入門編の説明や、わかりやすいDVDがあるとよいかなと思う。陣屋に関する場所を探して歩くマップがあると面白いと思う。高山市は海外の観光客向けに無料でW i - f iを使用できるようにする代わりに、外国人の間でSNSで高山を紹介してもらおうようになっている。それとタイアップして高山陣屋を紹介することはできないか。

【所長】

これまでにない種類別の説明、外国人へのアンケートなどの意見をいただけたので検討していきたい。貴重な意見をいただきありがとうございます。

| 平成29年度 岐阜県高山陣屋運営懇話会 名簿 | |
|------------------------|------------------------------|
| | (敬称略：五十音順) |
| 氏 名 | 職 名 |
| 國島 芳明 | 高山市長 |
| 桑山 智一 | 公益社団法人 高山青年会議所理事長 |
| 重森 万紀 | NHK岐阜放送局 放送局長 |
| 下垣内 たか子 | 高山市小中学校校長会 |
| 高橋 宏之 | 高山市文化財審議会会長 |
| 中野谷 康司 | 高山市教育委員会教育長 |
| 野澤 竜弥 | (株)高山市民時報社 代表取締役 社長 |
| 野邑 和子 | 飛騨歴史民俗学会会員 |
| 麓 和善 | 岐阜県文化財保護審議会委員 |
| 松井 多美子 | 高山商工会議所女性会会長 |
| 松葉 早百合 | 高山市商店街振興組合連合会 婦人部アドバイザー代表 |
| 丸山 幸太郎 | 岐阜県文化財保護審議会委員 |